

研究課題名	受精卵移植事業の普及定着化に向けた関連試験 (4) 乳用牛雌雄判別精液の利用方法と収益性の調査研究 －超高能力牛群造成高度利用システム化事業－		
予算区分	県単	担 当	改良技術研究室 繁殖システム研究グループ 経営技術研究室 企画開発グループ
研究期間	新規 (平成31～令和2年度)	協力関係	おかやま酪農業協同組合
研究目的	<p>県内酪農家戸数の減少は著しく、頭数も約6,300頭減の14,700頭となっている。初妊牛価格の高騰もあり、乳用後継牛確保の重要性が再認識されているが、乳用後継牛についても、県内の飼養頭数は10年間で1,440頭減の4,430頭となっており、乳用後継牛の確保は急務となっている。</p> <p>このような状況において、乳用牛雌雄判別精液を活用した安定的な乳用後継牛の確保による経営改善への取り組みが進められているが、雌雄判別精液の利用については、経営面での効果を念頭にした技術的な調査研究は少なく、普及上の課題となっている。</p> <p>そこで、雌雄判別精液を活用した多様な経営を調査し、課題や効果等を検証し、収益性の高い利用方法を明らかにする。</p>		
全体計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳用牛雌雄判別精液の利用状況を調査する。 2 調査結果を取りまとめ、よりよい利用方法を提示する。 		
研究対象	乳用牛	専門部門	受精卵移植、家畜繁殖
<p>○ 本年度試験のねらい 乳用牛雌雄判別精液の利用状況を調査する。</p> <p>試験1 乳用牛雌雄判別精液の利用状況を調査 (時期) 平成31年(2019年)4月～平成32年(2020年)3月 (試験の内容) おかやま酪農業協同組合の協力のもと、県内の乳用牛雌雄判別精液の利用状況を調査し、利用の多い農家、中程度の農家、未利用の農家を抽出し、聞き取り調査を行う。これにより、受胎率や雌産子の出生状況等、雌雄判別精液を利用したことによる経済効果を算出し、収益性の高い利用方法を明らかにする。</p> <p>○ 前年度までの成果 雌として選別されたホルスタイン種の性選別精液を用いて、自家産子牛により牛群規模を維持しつつ、ホルスタイン種雄子牛よりも高価な交雑種(F1)子牛の生産量を増やすことができる。このことで、人工授精費用が上昇しても農業所得を増やせる。 牛の性選別精液利用による経済効果(平成22年 農業・食品産業技術総合研究機構)</p> <p>○ 協力関係 おかやま酪農業協同組合</p>			

乳用牛雌雄判別精液の利用方法と収益性の調査研究

背景および目的

初妊牛価格の高騰により自家育成の要望が高まっている。

そこで、雌雄判別精液を利用して、安定した乳用後継牛の確保を！

初妊牛価格の推移



経営面での効果を念頭にした技術的な調査研究はなく、普及上の課題となっている。

そこで、受胎率や雌産子の出生状況等、雌雄判別精液を利用したことによる経済効果を算出し、収益性の高い利用方法を明らかにする。

実施内容

(1) 利用状況調査および聞き取り調査

おかやま酪農業協同組合の協力のもと、事例調査

- ・利用の多い農家
- ・利用の中程度の農家
- ・未利用の農家

を抽出し、聞き取り調査を行う。



(2) 分析

受胎率や雌産子の出生状況等、雌雄判別精液を利用したことによる経済効果を算出し、収益性の高い利用方法を明らかにする。



成果の活用



岡山県での収益性の高い利用方法を明らかにすることで、県内への普及が進み、所得の向上による経営体質の強化につながる。

